

大学院国際文化研究科 カリキュラム・ポリシー

○国際教育文化専攻

1. 高度に国際化する現代社会が直面する教育的課題に対処できる理論的思考能力を修得できるように、専門科目を配置する。
2. 国際教育に関する実践力とコミュニケーション能力を修得できるように、外国語演習科目を配置する。
3. 教育実践に関する高度な専門的職業人を育成できるように、充実した教科内容を網羅した専門科目を配置する。
4. 本教育実践に関する具体的な問題解決能力を育成できるように、学校心理及び教職関連科目を配置する。
5. 論文または特定課題は、研究指導教育職員の指導を受け、年に一度の中間発表会での報告を経て、修士論文または特定課題研究として提出し、審査委員の審査を受ける。

○国際地域文化専攻

1. 日本と特に関係の深いアメリカ・中国を含む環太平洋圏諸地域で活躍できる専門職業人及び研究者の育成のために、アメリカ・中国・日本の3地域の文化の真の理解とこの3地域で活動できる言語能力養成のための科目を配置する。
2. アメリカ・中国・日本の文化理解に必要な言語能力向上のために、演習科目を配置する。
3. アメリカ・中国・日本の文化については、それぞれ、文学・歴史・社会・思想・言語などにわたり多角的に授業科目を設け、専門分野とした地域については、高度な専門的知識が修得できるようにする。
4. 本専攻が対象としている3地域は、国際化が進んでいる現在、環太平洋圏の他の諸地域も含めて相互理解が欠かせないので、専門分野とする地域以外に関する科目も4単位以上履修することを義務づけている。
5. 論文または特定課題は、研究指導教育職員の指導を受け、年に一度の中間発表会での報告を経て、修士論文または特定課題研究として提出し、審査委員の審査を受ける。